

(様式4) 継続事業中間評価調査 (令和4年度実施事業)

評価確定日(令和 年 月 日)

事業コード		政策コード		政策名	子供と高齢者を重点とした交通事故防止のための取組						
事業名	交通安全施設整備・維持管理事業	施策コード		施策名	安全で快適な交通環境の整備						
		目標コード		施策目標名	交通安全施設等の整備・充実						
部名	交通部	課名	交通規制課	係名	規制第一係補佐	(tel)	5172	担当課長名	阿部展久	担当者名	森川千春
評価対象事業の内容											
								事業年度	年度～	年度	

1-1. 事業実施の背景(施策目的達成のための必要性)
 当県は全国一高齢化が進行し、人口減少も深刻であることから、子供と高齢者の交通事故防止は特に重要である。この対策として、安全で快適な交通環境を整備する必要があるが、生活道路においては通過交通の排除や車両速度の抑制に資するゾーン30、高齢者の交通事故防止に特化した「思いやりゾーン30」のほか、通学路においては信号機等の安全施設とともに横断歩道の整備等の対策が有効であるため、本事業を継続していく必要がある。

1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の問題点
 ゾーン30を始めとした各種規制は、「人」の視点に立った交通安全対策として推進する必要があるが、比較的短期間で標示の摩滅や標識の破損等が発生することから、この事態を放置すれば県民の遵法意識の低下や標示の視認性の低下による交通事故の発生等が懸念されるところであるから、計画的な維持管理を推進する。

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)
 限られた財源を有効活用し、安全で快適な交通環境を構築する。

4. 重点施策推進方針との関係 重点推進事項 その他の事業

5. 目的達成のための方法

①事業の実施主体 警察本部
 ②事業の対象者・団体 県民
 ③達成のための手段
 小中学校や生活エリア付近におけるゾーン30を設置し、高齢者が多く通行するエリアでは思いやりゾーン30を設置している。また、摩滅等が目立つ横断歩道については、通学路を優先して整備している。

2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの)

①ニーズを把握した対象 受益者 一般県民 (時期: 年 月)

②ニーズの把握の方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に メール、投書等による意見・要望)

③ニーズの具体的内容
 ゾーン30等規制の新設、横断歩道等、必要な標示の整備については、特に児童・生徒の通学路等において地域や学校から交通事故防止のための交通環境に向けたニーズがある。

6. 前回評価結果等 実施又は継続 改善 再検討又は縮小・休廃止

①指摘事項 なし

②指摘事項への対応

7. 事業の全体計画及び財源													
事業内訳コード	事業項目	左の説明					H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	全体(最終)計画
	交通安全施設整備・維持管理事業	交通安全施設整備及び維持管理に関する経費等(道路標示、道路標識の整備費等)					205,745	246,024	231,392	226,181	223,262	260,081	
予算額(千円)							205,745	246,024	231,392	226,181	223,262	260,081	
財源内訳	国庫補助金						61,124	72,940	63,134	52,087	64,507	64,507	
	県の債						14,700	25,500	32,800	27,200	0	18,400	
	その他の一般財源						129,921	147,584	135,458	146,894	158,775	177,174	

8. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

指標名	横断歩道の新設及び整備状況							
指標の種類	<input type="checkbox"/> 成果指標		<input checked="" type="checkbox"/> 業績指標					
指標式	新設・整備に要した標示施工数／当初必要とした標示施工数							
①年度別の目標値(見込まれる効果)								
指標	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	最終年度
目標a	2,801	2,193	1,829	1,800	1,500	1,500	1,600	
実績b	3,021	2,455	2,572	1,635	1,614	1,623		
b/a	107.9%	111.9%	140.6%	90.8%	107.6%	108.2%		
東北								
全国								
②データ等の出典								
③把握する時期 <input checked="" type="checkbox"/> 当該年度中 月 <input type="checkbox"/> 翌年度 月 <input type="checkbox"/> 翌々年度 月								

指標名								
指標の種類	<input type="checkbox"/> 成果指標		<input type="checkbox"/> 業績指標					
指標式								
①年度別の目標値(見込まれる効果)								
指標	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	最終年度
目標a								
実績b								
b/a								
東北								
全国								
②データ等の出典								
③把握する時期 <input checked="" type="checkbox"/> 当該年度中 月 <input type="checkbox"/> 翌年度 月 <input type="checkbox"/> 翌々年度 月								

指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由
 ゾーン30、思いやりゾーン30規制による標識等の設置については、継続している事業であるが、年度によって設置数の変動があり、かつ地元住民や学校の要望により設置することが多いことから明確な指標を出すことが困難であるものの、関係機関等と連携して計画的に整備を進めることとする。

②具体的な把握方法
 地元住民や学校の関心が高く、速度及び通行車両数の抑制は交通事故の減少や歩行者の保護に資することは明らかであることから、交通事故の発生状況、実勢速度の低減、通過交通量等から把握することとする。

③把握した効果
 これまでも、ゾーン30又は思いやりゾーン30の要望は寄せられているほか、規制設置後に住民や学校関係者等から、通過交通車両の速度の低下が見られるなどの意見が寄せられている。

④データ等の出典

⑤把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月

所管所属長による評価

		評価結果	
必要性の観点	現状の課題に照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 交通弱者である子供と高齢者に安全で快適な道路環境を提供するために、生活道路、通学路、高齢者が多く通行する箇所において標識・標示を活用した規制を提供することは必要である。	<input checked="" type="checkbox"/> A	
	住民ニーズに照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 小中学校の統廃合、バイパスの開通等、環境の変化に応じて必要な規制を整備することで、交通の安全と円滑を住民に提供していることから妥当である。	<input type="checkbox"/> B	
	法令・条例上の要請等	<input type="checkbox"/> C	
理由			
有効性の観点	事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 評価の対象 <input checked="" type="checkbox"/> 対象 <input type="checkbox"/> 対象外	<input checked="" type="checkbox"/> A	
	【理由】 交通事故件数の減少等、ゾーン30や横断歩道等の計画的な整備を推進した結果、歩行者を中心とした道路利用者の安全性が向上していると認められる。	<input type="checkbox"/> B	
		<input type="checkbox"/> C	
効率性の観点	事業の経済性の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c	<input checked="" type="checkbox"/> A	
	【理由】 厳しい財政状況の中、計画的に交通安全施設の整備・更新を推進しており、道路交通の安全と円滑が道路利用者に提供されていることから、経済性は妥当である。	<input type="checkbox"/> B	
		<input type="checkbox"/> C	
総合評価	事業の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> A(妥当性が高い) <input type="checkbox"/> B(概ね妥当である) <input type="checkbox"/> C(妥当性が低い)		
	対応方針 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持で継続 <input type="checkbox"/> 見直して継続 <input type="checkbox"/> 休廃止		
信号機を始めとした交通安全施設の整備・更新は、県民に安全・快適な交通環境を提供する上で必要性、有効性、効率性が極めて高く、今後も計画的・継続的に事業を推進する必要がある。			
評価結果の当該事業への反映状況(対応方針) 当該事業の継続に必要な財源獲得に努める。			
政策評価委員会意見(諮問する事業についてのみ記載)			